

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2020
JULY &
AUGUST

No. 116

Sat. 18th July
Tokyo Opera City Series

No. 682

Sat. 25th July
Subscription Concert

Niigata
Special Concert

Sun. 26th July

No. 114

Sat. 15th August
Tokyo Opera City Series
【Rescheduled Concert】



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶
	ユベール・スターン
特別客演指揮者	飯森範親
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆
名誉コンサートマスター	大谷康子
コンサートマスター	グレブ・ニキティン
	水谷 晃
アシスタント・	田尻 順
コンサートマスター	廣岡克隆

会 長	横川 端
理事長	澤田秀雄
副理事長	平澤 創
	依田 巽
専務理事	大野順二
常務理事	辻 敏
理 事	阿部武彦 夏野 剛
	池辺晋一郎 南部靖之
	伊藤美樹 福川伸次
	大橋 博 藤原 洋
	岡崎哲也 増岡聡一郎
	庄司 薫
	竹中平蔵
	永山 治
監 事	磯村文靖
	寺西基之
評議員長	金山茂人
最高顧問	梅沢一彦 星 久人
評議員	鷺海量明 松木康夫
	片山泰輔 山添 茂
	加藤英輔 横川 寛
	西村 朗
特別顧問	飯島延浩
	草壁悟朗
	福田紀彦

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 小川敦子
- 加藤幸子
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 森岡ゆりあ
- 吉川万理
- 大和田ルース

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河裾あずさ
- 塩谷しずか
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 渡辺裕子

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西広興 ●
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃
- 松崎里絵

Cellos

- 伊藤文嗣
- 川井真由美
- 謝名元 民
- 蟹江慶行
- 樋口泰世
- 福岡茉莉子 *

Double Basses

- 回助川 龍
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- 渡邊淳子
- 笠原勝二

Flutes

- 相澤政宏
- 八木瑛子 *

Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 絵理子
- 荒木奏美
- 篠崎 隆

Oboe & English horn

- 最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福井 蔵
- 福士麻里子
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 大野雄太
- ジョナサン・ハミル
- 阪本正彦
- 加藤智浩 *
- 清根伸吾 *

Trumpets

- 佐藤友紀
- 澤田真人
- 野沢岳史 ●
- 松山 萌

Trombones

- 鳥塚心輔
- 大馬直人
- 住川佳祐

Bass Trombone

- 藤井良太

Tuba

- 渡辺 功

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 武山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Harp

- 景山梨乃

Librarian

- ★武田英昭

Stage Managers

- 山本 聡
- 西岡理佐

楽団員

- 井伊 準 ◆

楽団長 大野順二

編成局長 藤原 真

パネェル・マネージャー 大和田浩明

楽団委員 相澤政宏 (議長)
大野雄太 (書記)

清水泰明
清水 太
鈴木浩司
藤井良太

事務局長 辻 敏

事務局

- 伊藤瑛海
- 尾木貴雄
- 梶川純子
- 桐原美砂
- 佐藤雄己
- 高瀬 緑
- 竹内裕子
- 長久保宏太郎
- 廣中憲士
- 美濃部 敦
- 山田道子
- 小川博司 *

名誉団友

- 深江泰輔 ◆ 三木晴雄

団 友

- 天野佳和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 肇
- 石川晴依也
- 今村和弘
- 岩澤淳子
- 上原正二
- 上原規照
- 上原未莉
- 内田彬雄
- 内田乃俐子
- 宇都 実
- 梅田 学
- 大隈雅人
- 大塚正昭
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 小川さえ子
- 荻野 昇
- 奥田昌史
- 音川健二
- 加藤合酒美
- 甲藤さち
- 加藤信吾
- 金澤 茂
- 久保ひと穂
- 熊谷仁士
- 小林照雄
- 小林亮子
- 佐川聖二
- 佐川裕子
- 佐々木真
- 菅野明彦
- 杉浦直基
- 鈴木一輝
- 芹澤英雄
- 曾根敦子
- 田中真輔
- 千村雅信
- 十亀正司
- 中塚和利
- 中塚博則
- 中山 智
- 西依智子
- 西脇秀治
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 原田美保子
- 日野 奏
- ペアン・
- ボーマン
- 前田健一郎
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 睦
- 森みさ子
- 諸橋健久
- 渡辺哲郎

【ハーブ貸与:株式会社環境ステーション】

◎首席奏者 ○フォアシュペーラー ●インスペクター 回客演首席奏者
■本部長 □部長 ★チーフ * 研究員・準事務局員 ◆ 故人 ◇ 新任

演奏会でのお願い

ご来場の皆様に演奏会を
楽しんでいただくためにご協力下さい

Please keep in mind the following rules, protocol and
etiquette so that all of our guests may enjoy today's concert.



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットに記載されて
いる座席番号にのみ有効です。座
席移動はご遠慮ください。また係の者が、チケットを
拝見・確認させていただく場合がございます。

Please be seated at the seat number designated on your
ticket.



補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウ
リングの発生を避けるためにきち
んと装着されているか今一度お確
かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please
check that your device is suitably set before the
performance begins.



開演前に携帯電話、 時計のアラーム音、 電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしても振動す
る音が響きますので、電源は必ず
切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms
and all other noise-emitting electronic devices before the
performance begins.



演奏中の 飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は
思っている以上に場内に響きます
ので、演奏中の開封はご遠慮ください。のど飴は演奏
開始前までに口の中へ入れておきましょう。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール
袋等、音の出るものは音を立てな
いようにご配慮ください。演奏中
の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かば
んのチャック等をいじるのも雑音となりますのでご注
意ください。

Please be silent during the performance.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの
広い帽子や高さのある帽子は脱い
でご鑑賞ください。またリズムをとる行為も、隣の人
の迷惑になりますのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in
a way which could disturb or obstruct the view of those
seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場、曲間・楽章間のご
入場は制限させていただきます。
途中入場がある場合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a
performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量は
かなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from
any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

フライングブラボーやフライング
拍手はお控えください。

The lingering sounds and moments are part of the
performance. Please hold your applause or shouting your
appreciation until the actual end of the performance.



香水は控えめに

Refrain from wearing an excessive amount of perfume.



ホール内での録音・録画・ 写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited.

7/18 SAT.

東京オペラシティシリーズ 第116回

2020年7月18日(土) 2:00p.m. 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.116

Sat. 18th July 2020, 2:00p.m. Tokyo Opera City Concert Hall

ジョナサン・ノット [指揮/映像出演(*)]
水谷 晃 [コンサートマスター]

Jonathan Nott, Conductor
Akira Mizutani, Concertmaster

ブリテン: フランク・ブリッジの
主題による変奏曲 (25')

B. Britten: Variations on a Theme
of Frank Bridge (25')

休憩(20')

Intermission(20')

ドヴォルザーク: 交響曲 第8番
ト長調 作品88 (35') (*)

Antonín Dvořák: Symphony No.8 in
G major, Op.88 (35')

- I. アレグロ・コン・ブリオ
- II. アダージョ
- III. アレグレット・グラツィオーソ
- IV. アレグロ・マ・ノン・トロッポ

- I. Allegro con brio
- II. Adagio
- III. Allegretto grazioso
- IV. Allegro ma non troppo

当初の予定から、曲目・出演者が変更となりました。

■映像収録 / Guy Wigmore, Wash Media Productions Ltd.

■映像オペレーション / 今村高史 (株式会社シグマ映像)

●主催 / 公益財団法人東京交響楽団

●助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

●後援 / スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

楽曲解説はP.05をご覧ください



7/18 SAT. 25 SAT. 26 SUN.



©K.Miura

Jonathan Nott

Conductor

ジョナサン・ノット

[指揮／映像出演]

Music Director

音楽監督

イギリス生まれ。フランクフルトとヴァースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン交響楽団首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、アンサンブル・アンテルコンタンポラン音楽監督、バンベルク交響楽団首席指揮者を経て、2014年度より東京交響楽団第3代音楽監督。2017年からはスイス・ロマンド管弦楽団の音楽監督も務めている。その抜群のプログラミング・センスに加え、古典から現代曲まで幅広いレパートリーを誇り、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、コンサートヘボウ管、シカゴ響等のオーケストラ、ザルツブルク音楽祭、ルツェルン音楽祭、BBCプロムス等の音楽祭へ客演している。ウィーン・フィルやベルリンフィルとの録音のほか、東京交響楽団とはオクタヴィアレコードより6つのCDをリリースしている。2020年3月第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」を東京交響楽団とともに受賞した。

Well known for the power, vigour and clarity of his interpretations of Mahler's works, Jonathan Nott has been music director of the Tokyo Symphony Orchestra since 2014. He was also appointed as Music and Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande as from 2017 and had been principal conductor of the Bamberg Symphony Orchestra for 16 years. Mr. Nott began his career at the opera houses in Frankfurt and Wiesbaden where he conducted all major works of the repertoire including Wagner's complete Ring cycle. Mr. Nott has a large catalogue of highly acclaimed recordings by the Orchestre de la Suisse Romande, the Bamberg Symphony Orchestra, the Berlin Philharmonic, and the Vienna Philharmonic Orchestra as well as recordings with the Tokyo Symphony Orchestra. In 2020, Mr. Nott and Tokyo Symphony Orchestra won the Best Orchestra of the 32th Music Pen Club Music Award.

7/18 SAT.

ベンジャミン・ブリテン (1913 ~ 1976)

フランク・ブリッジの主題による変奏曲 作品10

ロンドンの王立音楽大学で受けた授業に満足できなかったのであろう。自らの師と仰ぐのは、最初に作曲を習ったフランク・ブリッジ (1879 ~ 1941) であるとブリテンは述べている。14歳から始まった師弟関係は大学時代もプライベートで続き、当時としては進歩的なシェーンベルクやベルクの音楽に強い興味をもつようになったのもブリッジのお陰だった。そんな恩師の弦楽四重奏曲《3つの牧歌》(1906) の第2曲を主題とする変奏曲を構想したのは、1932年のこと。ピアノ曲として計画されるも、この時は完成に至らず。1937年5月、指揮者ボイド・ニールが3ヶ月後のザルツブルク音楽祭で初演する新作を必要としたため、映画音楽で共演していたブリテンに急遽依頼。こうして過去の構想を引っ張り出すことになったのだ。音楽祭での初演は大成功し、ブリテンの名が国際的に知られるきっかけとなった。

そもそもブリテンは、変奏曲を得意とする作曲家だ。最も知られる作品《青少年のための管弦楽入門》もその実態は「ヘンリー・パーセルの主題による変奏曲とフーガ」であるし、パッサカリアやシャコンヌといった変奏を伴う曲種も多い。オペラ全体を変奏曲にしてしまった『ねじの回転』のような作品まで存在しているほどである。同じイギリス生まれの変奏曲として有名なエルガーの《エニグマ変奏曲》は、個々の変奏がエルガーの友人たちを描いたことで知られるが、ブリテンがブリッジに捧げた本作は、個々の変奏で師の魅力を多面的に描いていく。

緊張感の高い序奏の後、弦楽四重奏で提示されていくのが前述した主題である。ヴィオラ、チェロ、コントラバスによる和音から始まる第1変奏：アダージョは「誠実さ／奥深さ」を、第2変奏：行進曲では「気力」、第3変奏：ロマンスは「チャーミングさ」、第4変奏：イタリア風アリアは「ウイット」、なかばでヴァイオリン独奏が活躍する第5変奏：古典的なブルーレは「ユーモア」、第6変奏：ウィーン風ワルツでは「伝統的」なところを、第7変奏：無窮動は「熱意」、第8変奏：葬送行進曲は「活力」、第9変奏：聖歌は「威厳」を描いている。最後の第10変奏：フーガと終曲では、前半で師の「技量」を、主題が二長調となって回帰する後半部で師弟の「親愛さ」が表現されている。ブリッジにとって本作がどれほど嬉しい贈り物であったのか、想像に難くないだろう。

小室敬幸 TEXT by Takayuki Komuro

作曲：1937年

初演：1937年8月25日、ヒルフェルスム(オランダ)。ボイド・ニール指揮、ボイド・ニール・オーケストラ。

舞台初演：1937年8月27日、ザルツブルク。ボイド・ニール指揮、ボイド・ニール・オーケストラ。

編成：弦5部

7/18 SAT.

アントニン・ドヴォルザーク(1841～1904)

交響曲 第8番 ト長調 作品88

稀代の旋律「作家」ドヴォルザークの人気作を聴く。

ボヘミアの森の描写に、摩訶不思議な郷愁を誘うスラヴの調べ、得意の変奏技法など、この交響曲には多くのキーワードがある。チェロ、ホルン、フルートの活躍も際立つ。終楽章の開始部にはトランペットのファンファーレも添えられた。そして親しみやすいメロディの数々。作曲家自ら「森の鳥たちの歌に心奪われ、最高に美しい旋律が生まれそう」と出版社への手紙に記したト長調のシンフォニーは、ドヴォルザークが40歳代の後半に紡いだ会心作のひとつである。にもかかわらず、1878年以来、懇意にしてきたドイツの出版社ジムロックから初版楽譜は刊行されなかった。ジムロックが才能あふれるドヴォルザークに求めたのは、連弾曲や歌曲、あるいは民謡や舞曲を背景とした小品で、構築的な交響曲ではなかった。それでこの交響曲はイギリスのノヴェロ社から刊行される。30年ほど前まで「イギリス」なる愛称が目についたのは、そのためである。音楽とは何の関係もない。

ただドヴォルザークが1884年の春以降、ロンドンのフィルハーモニック協会などの招きで大英帝国の首都ロンドンを都合9回訪問し、自作の宗教曲「スターバト・マーテル」を披露したほか、1895年には二短調交響曲(現在の交響曲第7番)を自らのタクトで初演するなど、絶大な人気を誇ったことは歴史的事実である。国際都市ロンドンでも名声を博した「チェコ国民楽派」のスター作曲家ゆえに、ドヴォルザークは後にニューヨークから招かれるのだ。前述のボヘミア、スラヴ色とともに、凝った創りやシンフォニックな構成も聴き手を捉えて離さない。彼は「それまでに書いた交響曲とは違う方法論で主題を展開させたい」という希望を抱いていた。

曲は1889年の夏、プラハの南西50キロほどのところにあるヴィソカー村でスケッチが開始され、1890年2月にプラハで初演された。管弦の調べは、いつになくみずみずしい。初演の翌年にはハンス・リヒター指揮のウィーン・フィル定期でも演奏された。その公演を、かつてドヴォルザークの才能を作曲の審査会で見出した恩人ブラームスが聴いている。ブラームスは「素晴らしいアイデアに溢れているが、副次的で繊細な美が多すぎるのでは」と「不満」を述べたと伝えられる。しかしそれは賛辞の裏返しだろう。ワルツ風の第3楽章、アレグレット・グラツィオーソが素晴らしい。ドヴォルザークが紡いだ、最高に魅惑的な音楽のひとつがここにある。

奥田佳道 TEXT by Yoshimichi Okuda

作曲:1889年8月～11月

初演:1890年2月2日 プラハ・ホルドルフィナム ドヴォルザーク指揮プラハ国民劇場管弦楽団

編成:フルート2(ピッコロ1持替)、オーボエ2(イングリッシュホルン1持替)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ2、弦5部

7/25 SAT. 26 SUN.

第682回 定期演奏会

2020年7月25日(土) 2:00p.m. / 7:00p.m. サントリーホール

Subscription Concert Series No.682

Sat. 25th. July 2020, 2:00p.m. / 7:00p.m. SUNTORY Hall

新潟特別演奏会 2020 盛夏

2020年7月26日(日) 5:00p.m. “リ्यूーとぴあ”コンサートホール

Niigata Special Concert 2020 Summer

Sun. 26th. July 2020, 5:00p.m. Ryutopia Concert Hall

ジョナサン・ノット [指揮/映像出演(*)]

グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Jonathan Nott, Conductor

Gleb Nikitin, Concertmaster

ストラヴィンスキー：ハ調の交響曲 (30')

I.Stravinsky : Symphony in C (30')

休憩(20')

Intermission(20')

ベートーヴェン：交響曲 第3番

変ホ長調 作品55 (50') (*)

- I. アレグロ・コン・ブリオ
- II. 葬送行進曲：アダージョ・アッサイ
- III. スケルツォ：アレグロ・ヴィヴァーチェ
- IV. フィナーレ：アレグロ・モルト

L.v.Beethoven : Symphony No,3
in E flat major, Op55 (50')

- I. Allegro con brio
- II. Marcia funebre: Adagio assai
- III. Scherzo: Allegro vivace
- IV. Finale: Allegro molto

■映像収録 / Guy Wigmore, Wash Media Productions Ltd.

■映像オペレーション / 今村高史 (株式会社シグマ映像)

- 主催 / 公益財団法人東京交響楽団 (7/25)・公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 (7/26)
- 特別協賛 / 株式会社エイチ・アイ・エス (7/25)
- 助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 (7/25)
文化庁文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 (7/26)
- 後援 / スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

楽曲解説はP.09をご覧ください



7/25 SAT. 26 SUN.

イゴール・ストラヴィンスキー (1882 ~ 1971)

八調の交響曲

記念すべきストラヴィンスキーの作品番号1は、リムスキー=コルサコフに師事していた時代に書かれた交響曲 変ホ長調 (1905~07) であった。その後、管楽器のための交響曲 (1920/40) と訳される作品も書いているが、これは英語でいえば本来「シンフォニー」で複数形になっているため、正しくは交響曲と呼べない。再び作曲されるようになるのは、新古典主義期の範疇となる《詩篇交響曲》(1930)以降のことで、本作《八調の交響曲》(1938~40)と《3楽章の交響曲》(1942~45)が遺された。《詩篇》《八調》《3楽章》は、それぞれ別の時期に書かれた作品なのだが、《詩篇》の最終楽章に登場する旋律が《八調》の主題となり、《八調》の最終楽章に表れる上行音形が《3楽章》の冒頭となり……と、意識的に連続性が形作られている。

ソナタ形式による**第1楽章**は、前述した通り《詩篇》で「Laudate」という歌詞にふられた音形(短2度上行、完全4度下行)が第1主題となり、ベートーヴェンの交響曲第5番のように主題労作が繰り返されていく。しばらく後に登場する低弦が中心となって繰り返される音形が第2主題(……なのだが、厳密に言えばこれも第1主題の変奏によって作られている)。こちらも主題労作が行われる。1小節の総休止のあと、トゥッティ(総奏)となることから展開部となり、徐々に盛り上がっていくとクライマックスでグレゴリオ聖歌の〈怒りの日〉が引用される。緩徐楽章となる**第2楽章**は三部形式で構成され、中間部で倍速テンポに転じる。面白いのは主部に戻る際もテンポが早まったままということだ。スケルツォの**第3楽章**は、冒頭の総奏から導き出された完全4度で上下する旋律が第1主題、ファゴットが主旋律を吹いてトロンボーンが伴奏する第2主題で構成されるソナタ形式である。展開部が短い代わりに、再現部で様々な変化が加えられる。管楽器による重苦しい序奏ではじまる**第4楽章**もソナタ形式で構成されており、テンポが上がって弦が加わる箇所から第1主題なのだが、まもなく第1楽章の主題群も合流して、主題労作が繰り返される。冒頭の序奏の雰囲気は回帰するあたりから展開部となり、対位法的な書法で緊張感が高められていく。まもなく第1主題が高らかに再現されるのだが、第1楽章冒頭の再現によって阻害されてしまい、そのまま穏やかに曲を締めくくる。

小室敬幸 TEXT by Takayuki Komuro

作曲: 1938 ~ 40年4月

初演: 1940年11月7日、シカゴ。作曲者自身の指揮、シカゴ交響楽団。

編成: フルート3、(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、バス・チューバ、ティンパニ、弦5部

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55『英雄』

作曲者の創作史のみならず、ジャンルの歴史にとっても革命的な交響曲。作曲完了は1804年初頭。ロプコヴィッツ侯爵の屋敷等で非公開演奏が重ねられた後、1805年4月7日、アン・デア・ウィーン劇場で公開初演が行われた。長大さや複雑さが聴き手を困惑させたことが、初演の批評から伺われる。

現実の革命家ナポレオンと作品を関連づけようとしたこともあったが、1806年の初版楽譜では「英雄交響曲、一人の偉大な人間の思い出を祝して」なる表題に落ち着いた。ナポレオンの明示は、自らの政治的立場を表明することに等しく、貴族の支援に依存するベートーヴェンには不可能な行為だったに違いない。

第1楽章は巨大なソナタ楽章。主和音2発の後、まずチェロで主旋律が奏される、交響曲としては異例の冒頭主題は要所で登場。3拍子の自然な拍節感を乱す不規則なリズムの利用、展開部のクライマックスに炸裂する不協和音等、大胆な工夫にも事欠かない。

当時は戦争描写の交響曲で葬送行進曲の部分が出てくることがあったが、ハ短調の**第2楽章**も「葬送行進曲」と題されている。悲壮感に満ちた主部とは対照的に、ハ長調の中間部は天国的晴れやかさを基調とする。フーガ風な展開を見せる主部再現の後、コーダが主要主題を解体していく。

第3楽章は、オーボエのソロが旋律的な素材を奏するまで、弦楽器の不規則なリズムが密やかに刻まれるというスケルツォらしからぬ開始をもつ。トリオはホルン三重奏が明朗な世界を拓く。

第4楽章はト短調の導入に続いて、切れ目なく展開する変奏曲楽章。主題旋律はバレエ《プロメテウスの創造物》などでも使われていた。バス声部(a)のみの提示とその変奏を実施した後に、主旋律(b)を伴った完全な形での主題提示という手順を経た上で、ト短調の‘ハンガリー風行進曲’風、フーガ風、アダージョ変奏など、个性的な変奏が繰り広げられ、導入と断片的な(b)を利用するコーダで閉じられる。

安田和信 TEXT by Kazunobu Yasuda

作曲：1804年

初演：1805年4月7日、アン・デア・ウィーン劇場

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、ティンパニ、弦5部

8/15 SAT.

【振替公演】東京オペラシティシリーズ 第114回

2020年8月15日(土) 2:00p.m. 東京オペラシティコンサートホール

【Rescheduled Concert】Tokyo Opera City Series No.114

Sat. 15th August 2020, 2:00p.m. Tokyo Opera City Concert Hall

沼尻竜典 [指揮]

辻 彩奈 [ヴァイオリン]

水谷 晃 [コンサートマスター]

Ryusuke Numajiri, Conductor

Ayana Tsuji, Violin

Akira Mizutani, Concertmaster

ストラヴィンスキー:

バレエ音楽「カルタ遊び」(23')

I.Stravinsky : "Jeu de cartes"

ballet en trois rounds, pour orchestre (23')

ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲 第1番

ト短調 作品26 (25')

I. 前奏曲:アレグロ・モデラート

II. アダージョ

III. フィナーレ :アレグロ・エネルジーコ

M.Bruch : Violin Concerto

No.1 in g minor, op.26 (25')

I. Vorspiel: Allegro moderato

II. Adagio

III. Finale: Allegro energico

休憩(20')

Intermission(20')

ベートーヴェン:

交響曲 第2番 二長調 作品36 (35')

I. アダージョ・モルト - アレグロ・コン・ブリオ

II. ラルゲット

III. スケルツォ: アレグロ

IV. アレグロ・モルト

L.v.Beethoven :

Symphony No.2 in D major, op.36 (35')

I. Adagio molto - Allegro con brio

II. Larghetto

III. Scherzo: Allegro

IV. Allegro molto

本公演は、2020年4月18日に予定していた「東京オペラシティシリーズ 第114回」の振替公演です。
当初の予定から、曲目・出演者が変更となりました。

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.14をご覧ください



8/15 SAT.



©Ryoichi Aratani

Ryusuke Numajiri

Conductor

沼尻竜典 [指揮]

びわ湖ホール芸術監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督。1990年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。以来、ロンドン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、フランス放送フィル、ミラノ・ヴェルディ響、シドニー響、チャイナ・フィル等世界各国のオーケストラに客演を重ねる。国内では新星日本響、東京フィル、名古屋フィル、日本フィル、群馬響、日本センチュリー響のポストを歴任、さらにドイツではリユーベック歌劇場音楽総監督を務めオペラ公演はもちろんリユーベック・フィルとのオーケストラ公演でも数々の名演を残した。ケルン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、バーゼル歌劇場、シドニー歌劇場、新国立劇場等へも客演、びわ湖ホールでも数々のプロダクションを成功に導いている。11年夏にはサイトウ・キネン・オーケストラへデビュー、バルトック《中国の不思議な役人》で絶賛を博した。14年にはオペラ《竹取物語》を作曲・世界初演、国内外で再演されている。17年紫綬褒章受章。

Winner at Besançon International Competition in 1990. After this victory Numajiri has been appearing at international orchestras such as London Symphony, Montreal Symphony, La Verdi Milano, Orchestre du Capitole de Toulouse, DSO Berlin, Sydney Symphony, China Philharmonic and Saito Kinen Orchestra. He successively held posts at several Japanese orchestras. He also has gone on to lead various productions at Cologne Opera, Komische Oper Berlin, Theater Basel, Bayerische Staatsoper, Opera Australia and New National Theatre Tokyo as guest conductor and achieved successful seasons at Theater Lübeck as General Music Director. At Biwako Hall, he has been achieving tremendous success on the productions including "Biwako Ring". In 2014 Numajiri composed and made world premiere a beautiful opera by Japanese famous folktale "Bamboo Princess", also known as Princess Kaguya, which has been repeated and highly acclaimed. He was awarded Medal of Honor with the Purple Ribbon by Emperor of Japan in 2017.



©Warner Classics

Ayana Tsuji

Violin

辻 彩奈 [ヴァイオリン]

1997年岐阜県生まれ。2016年、18歳にてモントリオール国際音楽コンクール第1位、併せて5つの特別賞を受賞。11歳にて名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演。これまでにモントリオール交響楽団、スイス・ロマンド管弦楽団、NHK交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などと共演している。また室内楽においては、チェロの堤剛、ピアノの江口玲、伊藤恵、エマニュエル・シュトロッセの各氏らと共演。2018年「第28回出光音楽賞」を受賞。これまでに小林健次、矢口十詩子、中澤きみ子、小栗まぢ絵、原田幸一郎、レジス・パスキエの各氏に師事。使用楽器は、NPO法人イエローエンジェルより貸与されているJoannes Baptista Guadagnini 1748である。2019年4月、ジョナサン・ノット指揮／スイス・ロマンド管弦楽団とジュネーブおよび日本にてツアーを実施し、その艶やかな音色と表現により各方面より高い評価を得た。

Ayana Tsuji is one of the most promising young violinists of Japan. Born in Gifu in 1997, she started the violin at age 3. She was awarded First Prize at the 2016 Montreal International Competition, together with 5 other prizes. She has performed as soloist with orchestras such as the Montreal Symphony Orchestra, Orchestre de la Suisse Romande, NHK Symphony Orchestra, Tokyo Symphony Orchestra, Tokyo Philharmonic Orchestra, Nagoya Philharmonic Orchestra, Osaka Philharmonic Orchestra, Kyoto Symphony Orchestra. Ayana graduated from Tokyo College of Music. She studied with Kenji Kobayashi, Toshiko Yaguchi, Kimiko Nakazawa, Machie Oguri, Koichiro Harada and Régis Pasquier. In 2018, she received the 28th Idemitsu Music Award. Highlights of the 2019-2020 season include Japan tour of Orchestre de la Suisse Romande with Mo. Jonathan Nott. Ayana plays a Joannes Baptista Guadagnini 1748, on loan from the Yellow Angel NPO Corporation.

8/15 SAT.

イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882～1971)

バレエ音楽「カルタ遊び」

イーゴリ・ストラヴィンスキーのバレエ音楽《カルタ遊び》は、アメリカ・バレエ団からの委嘱によって1936年に作曲され、1937年4月27日ニューヨークのメトロポリタン歌劇場で作曲家自身の指揮で初演された。これは、ストラヴィンスキーと振付家ジョージ・バランシンのアメリカでの最初の仕事であった。以後この二人のロシア人は、若い象のための《サーカス・ポルカ》など一風変わったバレエ作品などを生み出していった。これらのように、ストラヴィンスキーの音楽の特徴の一つは、音だけではなく身振りとも密接に結び付いていることであろう。彼の劇場での上演を目的に作られた作品は、1910年の《火の鳥》から1957年の《アゴン》まで20曲にのぼる。

《カルタ遊び》は3部からなり、台本はストラヴィンスキーが長男の友人ニキタ・マライエフと共作した。それぞれの部分は「ラウンド」と名付けられ、トランプのポーカーで遊ぶ様子が描かれる。主役は、どんなカードにもなれる、負け知らずのジョーカー。いたずらっ子のように、ゲームを混乱させようとする。最後にはディーラーの手が現れ、すべてのカードが持ち去られる、というのが大筋である。

各「ラウンド」を開始するのは、輝かしい行進曲のような「イントロダクション」である。これはカードテーブルにプレイヤーを招くいわば儀式で、ストラヴィンスキーがドイツの温泉街で体験した思い出がインスピレーションの源になっているという。それに続きさまざまなカードが登場し、ワルツなど多彩なダンスを繰り広げる。また途中に、ラヴェルの《ラ・ヴァルス》、ベートーヴェンの《交響曲第8番》、そしてロッシェ二の《セビリアの理髪師》の序曲からの引用がパロディー風に聴かれるのも面白い。

「カメレオン音楽家」と呼ばれるストラヴィンスキーは、実に多彩な様式の作品を書き残した。《カルタ遊び》はいわゆる新古典主義の時代のもので、明るいパレット、単純化された構造、そして折衷主義的な曲調が大きな特徴である。

越懸澤麻衣 TEXT by Mai Koshikakezawa

作曲：1936年

初演：1937年4月27日、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場にて

編成：フルート 2(ピッコロ持替1)、オーボエ 2(イングリッシュ・ホルン持替 1)、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、バス・チューバ 1、ティンパニ、大太鼓、弦5部

マックス・ブルッフ(1838～1920)

ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26

序奏からして幻想的、趣がある。ドイツ・ロマン派ならではの、かぐわしい旋律美がホールを満たす。重音を生かした独奏ヴァイオリンの華やかな技巧も聴き手の喜びとなる。

ブラームスよりも5歳年下のマックス・ブルッフが20代の終わりに完成させたヴァイオリン協奏曲第1番は、ヴァイオリニスト、この楽器を学ぶ人、ヴァイオリン芸術を愛してやまない私たちにとって「必携」の名作である。流麗かつ劇的な楽想が身上だ。

ブルッフは生前、多彩なジャンルを手がけた作曲家として愛され、指揮でも活躍。晩年はベルリン音楽大学の教授にも迎えられたが、録音は別として、コンサートでは一部の協奏的な作品が繰り返し演奏されているのが実情だ。しかし近年交響曲や宗教曲にも光が当たりつつある。

名曲誕生の背景に名手あり。ヴァイオリン協奏曲第1番は、親交のあったハンガリー出身のドイツ人ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831～1907)の妙技を想定し、彼の助言のもとに書かれたようだ。少年時代にメンデルスゾーンと共演し、1853年以降はブラームスの盟友となったヨアヒム!

けれども1866年4月にライン河畔のコブレンツで行なわれた「初稿」初演でソロを弾いたのは、オットー・フリードリヒ・フォン・ケーニヒスレーヴなる別のドイツ人というから歴史は面白い。

曲(または演奏)の出来映えに納得がいかなかったブルッフは、あらためてヨアヒムの意見を反映させつつ改訂を施す。改訂稿は1868年1月にヨアヒムのソロによってプレーメンで披露された。これが現行版である。

ちなみにブルッフのヴァイオリン協奏曲は3曲あり、サラサーテに献呈された第2番二短調(1877年作曲、ロンドンで初演)は、ハイフェッツ、アッカルド、パールマンの愛奏曲でもあった。

第1番ト短調は、続けて演奏される3つの楽章から成る。第2楽章なかほどの壮大な調べは、さてリヒャルト・シュトラウスの《アルプス交響曲》(1914/15年)に何らかの靈感を授けたか。

第1楽章 前奏曲:アレグロ・モデラート

第2楽章 アダージョ

第3楽章 フィナーレ:アレグロ・エネルジーコ

奥田佳道 TEXT by Yoshimichi Okuda

作曲: 1864～1866年/1867～1868年改訂

初演: 【初稿】1866年4月24日コブレンツ、作曲家自身の指揮、オットー・フリードリヒ・フォン・ケーニヒスレーヴ(ヴァイオリン独奏)
【改訂稿】1868年1月5日プレーメン、カール・マルティン・ライントーラー指揮、ヨーゼフ・ヨアヒム(ヴァイオリン独奏)

編成: 独奏ヴァイオリン、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦5部

8/15 SAT.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770 ~ 1827)

交響曲 第2番 二長調 作品36

交響曲の歴史に大きな足跡を残したルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンは、意外なほどに最初の交響曲を完成させるのが遅かった。第1番が初演されたのは、彼が30歳になる1800年のこと。その成功を受け、ベートーヴェンは比較的すぐに2作目の創作を始めた。スケッチは、1800年の秋頃から1802年2月頃のものが残されている。そして1803年4月5日、アン・デア・ウィーン劇場でベートーヴェン自身の指揮で初演された。その後、おそらく（ベートーヴェンのいつもの習慣で）出版の準備に際して細部が改訂され、1804年3月に出版。若きベートーヴェンを支えたパトロンのカール・リヒノフスキー侯爵に献呈された。

この交響曲が完成した1802年は、かの「ハイリゲンシュタットの遺書」が書かれた年である。ベートーヴェンは悪化する難聴に悩まされていた。しかしここには、そうした苦しみを微塵も感じさせない、生き生きとした世界が広がっている。また、1作ごとに前進しようというベートーヴェンの挑戦的な姿勢が明確に表れており、規模の点でも複雑さの点でも第1番を凌ぐ。オーケストラは、編成の観点では第1番と同じだが、管楽器が格段に活躍し、低弦がチェロとコントラバスとで独立した旋律を奏するなど、響きのパレットがより豊かになっているのも特徴的だ。


第1楽章は、33小節に及ぶ穏やかな序奏部の後アレグロ主部へ。主和音の分散和音を核とする第1主題は、ヴィオラとチェロのユニゾンが担当するという独創的なものである。非常に美しく抒情的な**第2楽章**は、一種のソナタ形式。ベルリオーズはこれを「気まぐれな憂鬱によって曇らされることのない、純真な幸福を描いた魅惑的な絵画」と表現した。**第3楽章**は、交響曲では初めて伝統的なメヌエットではなくスケルツォを採用。ピアノ、フォルテ、フォルティッシモと強弱を不規則に変化させることで、独特の流れが生まれている。**第4楽章**は高い緊張感で幕を開ける。最後までその激しい流れが維持され、長く華やかなコーダで閉じられる。

越懸澤麻衣 TEXT by Mai Koshikakezawa

作曲：1800年秋頃～1802年2月頃

初演：1803年4月5日、ウィーンのアン・デア・ウィーン劇場にて

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット3、ティンパニ、弦5部



Symphony Lounge

[シンフォニー・ラウンジ]

音楽監督
ジョナサン・ノットとの

4ヶ月

コロナ禍による影響と

「映像ノット」

辻 敏 (東京交響楽団事務局長)

Text by Tsutomu Tsuji

ジョナサン・ノットは諦めが悪い。

3月16日それまで有効だったビザが一旦全て無効となり、それ以降の海外アーティストの来日が危ぶまれた。緊急事態宣言も発動されていなかったこの時点では、4月以降にあれだけの感染者を出すとは正直想像していなかった。多くのオーケストラや音楽事務所は、4月に予定されていた海外アーティストの招聘を諦めたのだが、我々のケースは少し違っていた。ノット監督からは、「我々の音楽を、観客の有無に関わらず、配信であったとしても聴衆の方々に届けられる可能性が少しでもあるのであれば、来日のために最大限の努力を惜しまない」とのメールが舞い込んだ。これまでのビザが無効になるのであれば、もう一度取り直せば可能性はある。事務局の担当の廣中君から、在ロンドン日本大使館に連絡をとり、嘆願書に山ほどの資料を添えて送り、時差があるため連日日付が変わる頃まで交渉を続けた。到着後は14日間の待機が必要とされることとなり、その間公共交通機関の使用も禁止、ホテル側からはルーム



サービスのみの対応で、3日毎に部屋を変わり清掃・消毒対応する必要があると言われたが、ノット氏は「一切厭わない」と言う。可能性が「ゼロ」にならない限り、諦める様子は一切なく、全てのやり取りは来日する前提で当然の様に話される。これこそ「腹を括る」と言うやつだと思った。しかし、3月31日、最後の最後に、イギリスが入国拒否国に分類されて来日を取りやめる以外の方法がなくなった。とても残念だったが、これ以上やれないところまでやったと言うある種の満足感はある、ノット氏もここに至って来日を断念した。最大限の努力をした後は、諦めるのも非常にさっぱりとしていて、この人の生き様を垣間見た気がした。同時に、この人と付き合うには、こちら側にもある種の覚悟が必要だと改めて痛感した。もっとも、ノット氏とくぐり抜けてきた道が平坦だった覚えは殆どない。描いた通りにはいけないデコボコ道を、彼の異様なほどの強い精神力に後押しされ、いつもポロポロになりながら疾走してきた。

現状とは言えば、この数日後に日本も緊急事態宣言が発令され、全ての公演は中止・もしくは延期、当団も事務局を含め全ての業務を一旦休止することとなってしまった。

5月に入ってから、聴衆の皆様や楽団員へ向けてのビデオメッセージをと問い合わせた。返事はシンプルで、とても強いものだった。「そのメッセージの前にやることがあるだろう、コロナをどうやって切り抜け

るのか、コロナ後にどの様なヴィジョンでやっていくのか、まずは本気で話し合い、ブレインストーミングをやるべきだ」という内容の、長く強いメールだった。「皆さんお元気ですか～、ステイホームしましょうね～」と言った甘い言葉はどこにもない。以前にノット氏が「こんな素晴らしいベートーヴェンをこの愛するオーケストラと演奏できたのだから、今すぐ死んだとしても一切悔いはない」と喋っていたことを思い出した。彼は音楽を糧として生きていて、本当に真剣勝負だけを重ねて生きている。楽しい時は、本当に根の優しい人だが、スイッチが入った時の雰囲気はまた一味も二味も違う。こちらの努力も欠かせない。公演の延期の日程調整、中止となった依頼公演の補償交渉、助成金や各種の補助金申請の合間をみても、長いメールのやり取りを数日間繰り返し返した。

緊急事態宣言も解除され、次第に再開の目途もたってきた。と同時に、7月に予定されている公演の実施の可否が問われ、それは最終的にはビザが発給されるか否かにかかっていた。ジョナサン・ノットは諦めが悪い——再び間際まで頑張ることとなり、手を尽くしたが、大変残念なことに今回もビザが発給されず来日不可能。代役を依頼しようかと思っていたところにノット氏から発案されたのは、リモート指揮による演奏だった。複数の専門業者にリサーチしたが、問題が発覚した。指揮する姿をモニターにライブで映し出し、それを見ながらオーケストラ

音楽監督ジョナサン・ソットとの4ヶ月
コロナ禍による影響と「映像ソット」

早速、コンサートマスターの2人に相談をした。ここで、とても意欲的な話を聞くことができた。水谷氏曰く、「指揮の映像はリハーサルでは殆ど見ないようにしたいので、入手が遅れても問題ないです。今回は我々だけでどこまで音楽を作れるか、良いチャンスです。映像に合わせるリハーサルはやりません。彼のスコア（総譜）をもとに、我々で音楽作りをして、本番だけ映像見るくらいのイメージで十分ですよ。だっていつもそうじゃないですか。監督は細かいところまで徹底的にリハーサルしておいて、いつも本番は全く違うことを指揮して壊しに来る。空中分解するかも知れないギリギリを楽しみます。Take a riskですよ。」。ニキティン氏曰く、「これは監督がいなくても、監督のコンサート。監督の書き込み付きのスコアを借りて欲しい（これがあれば監督の意図はかなりの割合で分かる）。すべてのリハーサルにはアドヴァイスを貰って欲しい。あとオーケストラ全員にスコアを渡しておいて欲しい。」と、前向きでやはり映像を早く入手したいとは言われない。

賛否両論は必ずある。叩かれるかもしれない。勿論本流ではない。でも何か生まれるのではないかと考えてきた。元々、ソット氏と平坦な道なんて通ってきたつもりは無い。よし、ここはテイク・ア・リスクだ！きっと聴衆の方々もジャーナリストも、ソットの映像を何度も見て練習すると、思っているだろう。いっそリハーサルと本番で楽員にも内緒でテイクを変えてやろうか……。ワクワクし始めて、腹を括ることができた。結果は後のお楽しみだが、2人の頼もしいコンサートマスターにお礼を言いたい。

そういえば、5月にあれこれブレインストーミングをやっている時に、ソット氏から良い言葉を教えてもらった。Never let a good crisis go to waste. (良き危機を無駄にするな) 第二次世界大戦後の復興の際にチャーチルが残した名言だ。

が演奏するには時差が生じてしまう。それはコマ数秒ではなく、3~5秒くらい。これでは指揮者は実際の演奏を聴きながら演奏することはできない。やはり無理だと落胆して連絡を入れたところ、びっくりする返事が返ってきた。「ベートーヴェンが第九を自ら指揮した時、彼は既に耳が聞こえなかった。ブラボーの声にも気づくことなく、歌手に言われて初めて聴衆に振り返った。私はやれると思う」。えー、演奏を聴かずに指揮しちゃうんですかあ？と驚き、慌て、少し呆れもした。普通に考えるなら、フルトヴェングラーの指揮姿を見て演奏しても、当時のベルリン・フィルの演奏にはならない。当たり前だ。でもひょっとして、フルトヴェングラーの時代に、その指揮で長年演奏していた奏者が、フルトヴェングラーの映像を見て演奏したら、もう少し事態は違うのではないかとともに思いはじめた。ソット氏と長年やってきた我々ならば、彼の少しの動きも見過ごさずに反応できるのではないか。それから、どうしたら音楽的に少しでも充実したものにできるか相談を始めた。正直に話すと、ソット監督も一旦「できる」と言ったものの、当然ライブでの指揮の方が良いことは分かり切っている。また、スケジュール的な（時間が少ない）こともネガティブ要因の一つであった。散々悩み紆余曲折（その波も相当なものでしたが！）した挙句、チャレンジしてみることで話が付いた。コロナ禍にあって、苦渋の決断を何度も行ってきたが、それとは少し違う種類の決断だった。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N Ikegami

ご芳名 (敬称略)

法人
会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
ハウステンボス株式会社
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社インサイド・アウト
花王株式会社
環境ステーション株式会社
学校法人創志学園
株式会社ティーワイ リミテッド
株式会社日本財託
ピーアークホールディングス株式会社
株式会社フェイス

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
イーサポートリンク株式会社
サントリーホールディングス株式会社
新菱冷熱工業株式会社
セントラル短資FX株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鹸株式会社
中外製薬株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
株式会社日本ポステム
株式会社パソナグループ
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
株式会社ぶらう
丸紅新電力株式会社
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
横浜自動車部品株式会社

シルバー会員

株式会社エステシア
株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
学校法人順心広尾学園
松竹株式会社
有限会社青史堂印刷
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
日本宅配システム株式会社
株式会社野毛印刷社
久光製薬株式会社
本田技研工業株式会社
司法書士法人村田事務所
株式会社LALLヒューマンホールディングス

ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
ニッシンエレクトロ株式会社
富士ゼロックス神奈川株式会社
前山歯科医院
株式会社ヤクワ
株式会社U・STYLE
株式会社ワイ・ティ・ビィ

賛助企業

アサヒビール株式会社
東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名3社

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ
年額10万円～

シルバー
年額30万円～

ゴールド
年額50万円～

ダイヤモンド
年額100万円～

プラチナ
年額1000万円～

会員特典	詳細はHP、 又はお電話でお問合せ下さい	法人会員				
		法人会員	サークル 会員	フレンズ5	フレンズ会員 フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内		○	○			
出演者・楽員との懇親会		○	○			
オリジナルイベント		○		○	○	
ゲネプロ見学会(年3回以上)		○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)		○	○	○	○	○
ご芳名掲載		○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約*1		○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内*2		○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合：「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分[※]について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合：「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。[※]

[※]但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけるようになりました。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

特別支援ご寄付者名簿(敬称略)

このたびの新型コロナウイルス禍に対する東京交響楽団支援に、
多くの皆様からご寄付を賜り誠にありがとうございました。
ここにお名前を掲載させていただきます。

法人

玉の肌石鯨株式会社 月島食品工業株式会社 税理士法人おしうみ総合会計事務所

個人

相磯 浩	上野 美佳子	岸田 典子	佐藤 茂栄	滝沢 修	永井 篤	樋口 雅史	murayama
青山 和弘	植松 隆治	北澤 毅史	佐藤 直人	滝沢 友香	永井 崇	日野 晶子	shigeaki
浅野 由記	宇田川 晋	北野 雅子	佐藤 佳子	武石 佐枝	永井 隆太郎	平岩 小百合	村山 悠太
浅野 哲成	宇田 道弘	木内 正則	品田 真彦	武市 義一	中川 とも子	平田 志保	望月 晶
安達 みゆき	内田 敏子	木内 道子	柴田 翔平	竹内 慎	中澤 裕美	廣井 和臣	本橋 千恵子
Abe	内山 誠彦	木下 順子	島倉 仁志	武尾 和彦	長澤 浩美	廣瀬 泰文	森口 恭子
Manabu	江原 理恵	木下 淳平	嶋崎 達治	武田 栄子	中島 生也	深沢 弘美	森田 整
荒木 憲治	遠藤 小織	木村 桂一	春藤 美穂	竹田 吉三郎	中島 泉	藤井 薫	森永 寿一
荒木 宣孝	大岩 敦子	桐生 雅明	庄司 美和	武田 萌絵	中島 知弥子	藤井 久美子	森 実里
荒 洋一	大滝 里美	KUDO	白瀧 千夏子	武市 一成	永友 幸子	藤井 彩乃	森 祐樹
五十嵐 利輝	太田 健司	SUMIRE	新谷 利秀	田島 彰	仲野 かほり	藤川 裕司	森 玲子
生田 祐子	大塚 麻依	窪田 翔	末吉 美奈子	館野 大喜	中野 裕子	藤谷 美保	谷島 みどり
池上 綾子	大野 智子	久保 律子	菅原 依子	田中 悦子	長浜 裕子	藤田 義昭	安江 美衣
池田 きよ子	大森 正敏	倉田 英樹	杉本 憲亮	田中 敬子	中村 宏之	藤原 真一郎	安田 直己
池田 俊也	岡田 祥平	小池 美帆	杉山 慎二	田中 知子	中原 百合子	古川 健司	安田 光子
池田 力哉	岡田 百合	小泉 伸一	杉山 良雄	田中 成章	中村 幸太郎	星 直樹	矢内 寛子
石井 隆	荻野 敬子	小泉 由美	鈴木 加菜	田中 広晃	中村 大志	星野 有紀子	山本 憲光
石井 徹	荻原 松美	神代 博史	鈴木 祥子	谷口 太郎	中村 美香	堀江 正雄	山崎 克仁
石川 絵梨	長田 章代	神戸 亮人	鈴木 眞理	谷元 志帆	中村 基孝	堀口 容子	山田 友則
石川 友規	小樽 茂穂	古賀 千智	鈴木 雄治	種村 真一	中村 百合子	本田 恭子	山田 智美
石田 晃一	落合 昭	小久保 麻実	鈴木 ゆき子	田村 敦志	仲山 久美	本保 弘人	山本 佳
石戸 孝征	磯辺 かなえ	小島 広伸	鈴木 裕輔	田村 美佐	成田 伊美、	本間 淳一	山本 浩一
磯辺 聡	小山田 玲子	小島 昌尚	須田 眞理子	千田 晴久	千葉 美由貴	前田 智愛	山本 真
磯村 元紀	加賀 充	児玉 尚	関 和彦	長 光浩	成瀬 裕子	牧田 直樹	山本 真人
市川 明美	角井 光子	西本 雅弘	関谷 良一	筑城 裕介	西田 紘子	松岡 陽平	横森 浩美
市川 直人	片山 勝喜	小林 紗雪	関谷 典子	辻川 泰範	西原 江美	松澤 里咲	吉岡 美佳子
糸井 若葉	加藤 悦子	小林 由佳	相馬 紀貴	辻直浩	野崎 敏	松下 悦也	吉澤 茂
伊藤 俊太郎	加藤 知子	小松 誠	高尾 禎子	津田 裕行	野田 加奈子	松下 ひろみ	吉田 正
伊藤 貴子	加藤 浩子	ザ・アベックス中村 浩二	高木 敦雄	筒井 千香	野平 治	松本 龍大	吉田 友作
伊藤 喜子	加藤 由紀	厩川 励子	高木 雅也	都築 由理江	野村 一成	間所 利恵	吉村 朗
稲田 綾子	金子 智昭	齊藤 麻利	高塚 知之	津留 克典	野村 雅彦	馬橋 達成	吉村 育朗
Inoue	兼子 伸彦	齊藤 陽介	高野 育浩	津留 千史	橋本 恭子	三上 裕人	渡辺 明子
Kazushige	仮屋 園 愛美	齊藤 留美	高野 育浩	釣谷 史香	長谷川 彰子	三上 雅之	渡部 直
井上 廣和	川上 祐司	佐伯 禎子	高橋 一敏	寺尾 仁	長谷川 さつき	水越 久美子	渡邊 彩恵香
井上 康子	川嶋 耕太郎	酒井 伊智郎	高橋 毅	寺田 恵美子	畑山 豊士	水田 英朗	渡邊 直
井畑 光洋	川嶋 康子	酒井 治人	高橋 人夢	照井 理絵	畑 耕一	三田村 啓佑	渡部 遥
今井 俊昭	川津 泰人	坂本 尚也	高橋 肇	富岡 諭介	畑農 敏哉	湊 麻紀子	匿名希望
今尾 敦史	川端 陽子	坂本 祐樹	高橋 眞理	富田 康児	林 雅人	三輪 晃司	441 名
岩崎 隆明	川原 正隆	阪本 良太	高橋 涼子	富高 香織	林 祐子	武藤 雅則	
岩澤 利枝子	河村 徳子	佐久間 修	高本 篤志	富山 和美	林 裕人	村中 満	
岩淵 知央	菊池 万美子	桜井 清一	滝上 秀人	鳥山 薫	早田 初音	村山 永里子	
植木 穂高	木澤 美恵子	佐藤 謙	滝川 朋子	内藤 由香	張田 豊		

あたたかい励ましのお言葉、ご寄付をいただき、楽団員一同深くお礼申し上げます。
新型コロナウイルス禍により、演奏会のキャンセル、チケット払い戻し等多大な経済
的被害を被り厳しい状況が続いております。引き続き皆様のご支援を賜りたくここに
お願い申し上げます。

ご寄付は右記QRコードから、オンラインにて承ります。



公式サイトオンライン寄付ページ

NEWS & TOPICS

レポート マッチングギフトコンサート、全3回終演しました！

川崎市の支援により、6月末から始まった「川崎市&東京交響楽団 Live from MUZA」が終演致しました。7月3日時点で、全3公演合わせて5万回以上のご視聴と、500万円を超えるご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。本公演は、9月30日までタイムシフト機能により放送を視聴することができます。また、9月30日までの間に楽団に寄せられた寄付に対し、川崎市が寄付金額と同額相当(上限1千万円)分の支援をするマッチングギフトとして、当団主催公演のチケットを購入し、市民招待致します。引き続き皆様のご視聴、ご支援をお願い申し上げます。

詳しくは
こちら



NEXT PROGRAM

9/5 東京オペラシティシリーズ第117回
(土) 2:00p.m. 東京オペラシティコンサートホール

指揮&ピアノ: マクシム・エメリヤニチェフ

- ハイドン: 交響曲 第103番「太鼓連打」
- モーツァルト: ピアノ協奏曲 第20番
- ベートーヴェン: 交響曲 第5番「運命」

S¥7,000 A¥6,000 B¥4,000 C¥3,000



9/26 第683回 定期演奏会
(土) 6:00p.m. サントリーホール

9/27 新潟定期演奏会 第122回
(日) 5:00p.m. "りゅーとびあ"コンサートホール

指揮: リオネル・ブランギエ
ヴァイオリン: アリーナ・イブラギモヴァ

- コダーイ: 管弦楽のための協奏曲
- ショスタコーヴィチ: ヴァイオリン協奏曲 第1番
- バルトーク: 管弦楽のための協奏曲

[9/26] S¥8,000 A¥6,000 B¥5,000 C¥4,000 P¥2,500

[9/27] S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,000 P¥2,000

りゅーとびあチケット専用ダイヤル TEL 025-224-5521



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ
<提携>公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団



公式サイト

<http://tokyosymphony.jp>



1946年、第二次世界大戦によって中断された音楽文化の再建と、新しい舞台音楽の公演を目標に「東宝交響楽団」として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。

現代音楽やオペラの初演に定評があり、これまでに文部大臣賞、京都音楽賞大賞、文化庁芸術作品賞、モービル音楽賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞など日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。2020年3月第32回ミュージック・ベンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」「室内楽・合唱部門(東響コーラス)」をW受賞した。

2014年度シーズンより、ジョナサン・ノットが第3代音楽監督に就任。音楽監督と共に3年がかりで取り組んだ「モーツァルト 演奏会形式オペラシリーズ」や、ミュージック・ベンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」が第31回「ミュージック・ベンクラブ音楽賞優秀録音作品賞」を受賞。音楽誌「音楽の友」の「41人の音楽評論家・記者」が選ぶ「コンサート・ベストテン2019」にて、最多3公演が選出され注目を集めた。

ITへの取り組みも積極的で、「VRオーケストラ」や「LINEチケット」の導入、日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サービス「TSO MUSIC&VIDEO SUBSCRIPTION」をスタートし注目を集める。また、録音や放送においても活発で、テレビ朝日「題名のない音楽会」へレギュラー出演や、TOKYO SYMPHONYレーベル、N&Fレーベル、キングレコード、EXTONレーベル、日本コロムビア等からCDを多数リリースしている。

舞台芸術創造活動活性化事業として文化庁の助成を受け、サントリーホール、ミュージック・ベンクラブ音楽賞サントリーホール、東京オペラシティアートホールで主催公演を行うほか、川崎市とフランチャイズ、新潟市と準フランチャイズ、(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団とパートナーシップ提携し、コンサートやアクトリチなどを積極的に展開している。これら地域に密着した活動の一方で、海外においてもウィーン楽友協会での公演や日中平和友好条約締結40周年記念公演等58都市で78公演を行い、国際交流の美を挙げた。

また、新国立劇場では1997年の開館時からレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演に出演。さらに、子どものための演奏会にもいち早く取り組んでおり、「0歳からのオーケストラ」【子ども定期演奏会(サントリーホールとの共催)】は多方面から注目されている。

東日本大震災を機に、2011年5月から楽団員によるチャリティコンサート「Concert For Smiles」を定期的に開催。その募金は(公財)国際開発支援財団を通じて被災地に役立てられている。

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. In March 2020, Mo. Nott and the Orchestra won the Music Pen Club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In 2018, TSO launched "TSO Music & Video Subscription", first-ever digital project in Japanese Orchestras, which provides live-concert video and music as well as CD recording.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. In 2016, the Tokyo Symphony Orchestra celebrated its 70th anniversary and took a European tour including the concert at Musikverein Großer Saal in Vienna with Mo. Nott. In August 2018, in commemoration of the 40th anniversary of the Conclusion of the Treaty of Peace and Friendship between Japan and China, the Orchestra had concerts in Shanghai and Hangzhou and received high praise. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera. Through these activities, the orchestra has received most of Japan's major music awards such as the Minister of Education Award, the Grand Prix of Kyoto Music Award, Mainichi Art Award, Agency for Cultural Affairs Art Award, Suntory Music Award and Kawasaki City Culture Award.

Since becoming the resident orchestra of the City of Kawasaki in 2004, a semi-resident orchestra agreement with the City of Niigata in 1999, and a partnership agreement with Hachioji College Community & Culture Fureai Foundation in 2013, the orchestra has been enthusiastic for school concerts and community concerts. The Tokyo Symphony Orchestra has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.



マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



音楽・動画配信サイト

「TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION」

1か月
500円
(税別)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

Tokyo Symphony Orchestra Monthly Concert Brochure

Symphony

Symphony 2020年(令和2年)7&8月号 [非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュージック・ベンクラブタワー5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト

音楽監督 ジョナサン・ノットが考える 「演奏会形式」 Jonathan Nott, Music Director

ジョナサン・ノット (東京交響楽団音楽監督)

2020年シーズンラインナップ記者会見より



これは様々な場面で申し上げているのですが、私は演奏会形式のオペラが大好きなのです。キャラクターを素晴らしく歌い上げる歌手とオーケストラがすぐ間近にいて、皆さんとも近い距離でそのオペラを感じていただける、とてもエキサイティングなコンサートスタイルです。

大きいコンサートホールピットの中にオーケストラが入ると、全体を俯瞰して見ることはできるけれども、音楽家の存在がどうしても遠くなってしまいます。オーケストラは透明人間のような見えないう存在にならざるを得ないのです。それに対して演奏会形式は、オーケストラがステージに上がることによって、楽器奏者と歌手が互いにやりとりをすることができ、例えば《トリスタンとイゾルデ》マルケ王がクラリネットと掛け合うように、歌手がオーケストラを振り返り、語り合うかのように歌い上げることができるのは、演奏会形式ならではのことでないかと思っています。オーケストラがあたかも合唱(オペラの時には合唱がステージ上に出る、あの感覚です)のような存在で、みんなと一緒にやり取りをして、一つの音楽を作り上げていく。同じ土台で同時に音楽を作り出していくということに、何とも言えない妙があるのです。この“うちなるパワー”というものを、皆さんに聴いて頂けるような演奏会形式オペラが、私は大好きなのです。

ここで一つだけ問題となるとすれば「音量」です。オーケストラピットの中では音量は抑えられますが、ステージ上だとやはりそれだけオーケストラが「制御」をしなくてはならないという、非常に難しい技

を求められます。ですが、私たちは昨年10月にもシェーンベルクの難曲《グレの歌》を見事に整理して素晴らしい音楽に仕上げることができましたので、それに比べたらワーグナーの《トリスタンとイゾルデ》はずっとシンプルです。なにせ《グレの歌》では「ここにも!そこにも!こんなところまで!」というくらい音が沢山ありましたから、それでもそんな音一つ一つを見事に整理してみせた彼らには、心から賞賛の言葉をかけたいです。100%完璧であったとは言いません。時々「アッ」というところはあったかもしれませんが(笑)、しかしながら、そこには何百人という人間の一人一人が奏でる音と歌詞が、見事に融合した世界があったと感じています。そして、それが《トリスタンとイゾルデ》でも可能であると、私は信じています。

◇公演情報◇

第一週 10/9(金) ミューザ川崎シンフォニーホール / 18:30
10/11(日) サントリーホール / 14:00

シェーンベルク:交響詩「ペレアスとメリザンド」

ワーグナー:楽劇「トリスタンとイゾルデ」
第1幕(演奏会形式)

第二週 10/15(木) ミューザ川崎シンフォニーホール / 18:30
10/17(土) サントリーホール / 14:00

ワーグナー:楽劇「トリスタンとイゾルデ」
第2幕、第3幕(演奏会形式)

指揮:ジョナサン・ノット

トリスタン:ブライアン・レジスター イゾルデ:リサ・リンドストローム
ブランゲン:クラウディア・マーンケ マルケ王:ミハイル・ペトレンコ
クルヴェナール:ダニエル・シュムツツハルト
水夫、メロート、牧童:アンジェロ・ポラック
舵手:高田智士 演出:彌勒忠史 合唱:新国立劇場合唱団